

インターバンクの声（2016年11月17日）

トランプ次期米大統領の経済政策に対する期待の高さが保たれ、米中長期金利の上昇も続いていることから、ドルの上昇が続いて来たが、さすがに上昇の速さと上げ幅の大きさに対する警戒感も出始めている。ドル/円は5ヶ月半ぶりに110円を越えそうな水準に到達、ユーロ/ドルも年初に付けた今年ここまでの安値だった1.07ドル台前半を割り込む水準まで下落している。テクニカル面からも、このままドル買いを続けて良いのかどうかを考えるタイミングだ。

可能性は少ないとは思ものの、17日の議会証言でイエレン連邦準備制度理事会（FRB）議長がドル高けん制発言でもしよものならドルの急落は避けられないだろう。昨夜のニューヨーク市場では、10月の米生産者物価指数が予想に反して伸びず、鉱工業生産指数も速報値から下方修正され、110円に迫っていたドル/円はいったん109円台前半まで売られている。今日、ニューヨークでは馬が合うのではないかも報道される安倍首相とトランプ次期大統領との会談も予定されており、ドル買いもいったん小休止させたほうが良いのかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。